



企画展関連 講座

出産と子育て—明治から昭和の茨城—

講師 | 額賀せつ子氏 (元厚生労働省看護研修研究センター主任教官)

人々はいつの時代も、出産を無事に終えること、子どもが健やかに成長することを願っています。出産と子育ての変遷を見ると、明治42年から大正12年までの乳児死亡率(千対)は、190~200台と高率でした。大正12年からは愛国婦人会茨城県支部が、産婆の無料派遣や農村託児所の設置をしています。昭和12年に保健所法と母子保護法が公布され、保健婦が新設されました。子どもは少国民と言われて乳幼児体力検査が行われ、母親には妊産婦手帳が交付されました。戦後は衛生思想の普及、医療技術の進歩、家庭分娩から施設分娩への移行、母子センターや県立こども病院の設置などにより、昭和の終わりには乳児死亡率が1桁台になりました。

本講座では妊娠・出産時の生活環境、地域の習慣、経済、国の政策などが子どもの誕生や育ちにどのように影響したのかを振り返り、現在の課題を考えます。



愛国婦人会茨城県支部新治郡中家村農村託児所
(酒井テイ子家1514-2)(中央、豊田英雄)
昭和2年 当館(部分)

日時 2025年11月1日(土) 14:00~15:30

料金 無料

展示室に入場する場合 一般390円/満70歳以上200円
(高校生以下無料/障害者手帳等をお持ちの方と付き添いの方1名無料)

定員 先着150名

会場 茨城県立歴史館 講堂

申込 当館ホームページ申込フォーム

往復はがき(イベント名、住所、氏名、電話番号記入)



申込はこちら

茨城県立歴史館

〒310-0034 水戸市緑町2-1-15 TEL 029-225-4425

休館日: 月曜日(祝日の場合はその翌日) 開館時間: 9:30~17:00(入館は16:30まで)